

ハイライトよねやま 55

(財)ロータリー米山記念奨学会

2004年9月9日発行

1. 寄付金速報 ~10月の米山月間に向けて

8月までの寄付金は、前年同期と比べ3.5%減、約1千百万円の減少でした。普通寄付金が0.5%減、特別寄付金が9.4%減です。今月の傾向として、ガバナー公式訪問記念寄付【2590地区・2750地区】とクラブ米山奨学金の寄付金納入件数が増えたことなどから、前月の特別寄付金の落ち込み(前年同期比19.1%減)は少し回復しましたが、まだ楽観はできない状況です。

特別寄付金は、例年10月から12月にかけてピークを迎えます。ぜひ10月の米山月間には、新しい資料を活用し、事業への理解を深めていただきますようよろしくお願いいたします。

2. 2004年度第1回理事会・評議員会報告 ~真摯な議論で今後の米山奨学事業の在り方を問う

2004年度最初の理事会・評議員会合同会議が、8月30日に東京・品川のホテルパシフィック東京で開かれました。台風17号の影響が心配されましたが、陪席者1名を含む97名の出席を得て、予定通り理事会・評議員会を開くことができました。主な議事は、2003年度事業・決算報告、2004年度予算一部修正、評議員の委嘱、寄付行為の一部変更などでした。



開会の挨拶をする島津久厚理事長

理事会・評議員会後に予定していた第2回フォーラムは、残念ながら台風接近のため中止となりましたが、質疑応答の時間を利用して、米山奨学事業全般に関する自由な意見交換と討議を行いました。各地区の理事・評議員からは、現行奨学金制度の抜本的見直し、募集・選考における地区裁量枠設定への賛否、大学推薦制度における大学との連携強化、ロータリーの目的・使命を再確認して目標達成に一層の努力をすることなど、地区の問題意識や事例を交えてさまざまな意見が挙げられました。また、8月に中国で開かれたアジア杯サッカーを発火点とする日中間の市民感情問題に対する意見では、このような時だからこそ“寛容と信頼感”をもって米山奨学事業を推進することの大切さを説く声が上がりました。米山奨学事業の意義を再確認する機会となりました。

(常務理事・事務局長 宮崎 幸雄)

3. 今年の目玉は「米山奨学事業・豆辞典」! ~米山月間資料のご案内

ロータリー米山記念奨学会では、今年も各クラブでの米山月間プログラム用に、全国のロータリー・クラブに資料を配布いたします(9月中旬発送)。



今年の目玉は、全会員に配られる「米山奨学事業・豆辞典」。その名の通りのかわいいポケットサイズながら、財政状況・寄付金の使途、学友の活躍、制度改編における課題など、米山奨学事業の最新情報を満載しています。アンケート付きですので、皆さまの自由なご意見をぜひお聞かせください。なお、豆辞典の内容に合わせたプレゼンテーション用のパワーポイント(約10分)もご用意しています。ご希望の際には、米山奨学会事務局までご連絡ください。

4. 二胡の演奏と奨学生の人柄に心動かされて ~ 第 2630 地区【岐阜・三重】寄付事例

先月の 54 号で紹介した第 2630 地区の二胡ミニコンサート卓話の続報が、藤田米山奨学委員長から寄せられました。岐阜南 RC の例会で、米山奨学生・梁 天任さんの演奏する二胡ミニコンサート卓話を行ったところ、終了後に寄付金を手渡してくださった方がいたそうです。藤田委員長も感激し、「感動させる演奏ができて、私の心も充足しています」と梁さんも感謝していたとのこと。早速、今回のご寄付をくださった尾木信蔵氏（岐阜南 RC）にお話を伺いました。

寄付者の声

異国に来て一生懸命にあれだけの演奏をしてくれたことに心を動かされました。何よりも梁さんの真面目な人柄とひたむきさが伝わりました。良い奨学生を見つけてきて、このような企画を実施した地区米山奨学委員会のご苦労も大変なものだと思います。国際親善は実は難しいことであって、人と人とのつながりは機会をとらえなければなりません。今回の卓話はその機会になりました。梁さんには、日中友好に大いに役立つことですので、今後もぜひ頑張ってもらいたいと思います。また会いましょう。いつでもクラブで歓迎します。

5. 米山月間に奨学生の卓話をどうぞ ~ 各地区の創意工夫をご紹介します

米山奨学生とロータリアンを結ぶ重要な接点が「卓話」です。米山月間には、多くのクラブで奨学生や学友の卓話が行われます。米山奨学生にとっては、自国の文化を日本に紹介する貴重な機会であり、同時に、米山奨学生だからこそできる貢献の一つの形でもあります。地区でも米山奨学生の卓話を奨励・推進していますが、今回は、そのさまざまな工夫点をご紹介します。

全クラブに事前アンケートを実施：

地区によっては、米山月間のプログラムについて、事前にクラブにアンケートを取るなどして、希望を聞くところもあります。近隣に大学がなく世話クラブを受けられないなど、奨学生との接触が少ないクラブでも、奨学生や学友の卓話を地区に依頼することができます。

学友会との連携：

地区の学友会と連携して、卓話者を手配するケースもあります。学友会によっては、会長をはじめ、卓話ができる会員をリストアップして、米山月間の卓話の依頼に対応しています。

クラブ委員長や地区委員のプレゼンテーションに奨学生の卓話を組み合わせる：

多くのロータリアンの前に出て日本語で 30 分近くスピーチするのは、奨学生にとっても大変なことです。誰もが上手にできるとは限りません。そこで、まず、クラブ米山委員長や地区の米山委員が、月間用資料などを利用して米山奨学事業全般について説明し、その後、米山奨学生が身近な話題や研究テーマについて短めにスピーチするという方法もあります。

米山月間のプログラムをご検討中のクラブは、ぜひ一度、地区米山奨学委員会に相談してみたいかがでしょうか。ロータリー米山記念奨学会事務局でも、可能な限りの情報や資料をご提供できるよう努力いたしますので、お困りのことがあれば、ご遠慮なくお問い合わせください。

(財)ロータリー米山記念奨学会 編集担当：^{みな}峯・^{のう}野津・^{おおは}大庭
〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-3 abc 会館ビル 8 階
Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281
E-mail : highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL : http://www.rotary-yoneyama.or.jp/